



「車いすまち体験ウォークラリー」で車いす操作の説明に耳を傾ける参加者たち

広報
No.663

させぼ



広報させぼ 編集長
「キューちゃん」

特集 心のバリアフリー

2 ~ 5 p

今月の主な内容

アスベストの状況、市県民税申告相談など	6 ~ 9 p
市民の広場	10 ~ 11 p
施設だより、イベント	12 ~ 13 p
歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド	22 ~ 23 p
九じろうの取材日記	24 p



PUBLIC RELATIONS SASEBO



メモを取りながら話を聞く参加者の皆さん

最近ではテレビや新聞・雑誌などで健康に関するさまざまな知識を得る事ができますが、内容についてはうる覚えだったりありまなかったりということがありませんか。今回は健康についての正しい知識を学ぶために、昨年12月21日に市立総合病院で開かれた健康教室に参加しました。

九じろうの取材日記

市立総合病院の健康教室



終始笑顔で説明する講師の原医師

110回目のテーマは「乳がん」この健康教室は10年前から開かれ、各科の専門医師が病気の最新治療や検査などについて分かりやすく話をします。健康管理や病気の早期発見につながる事もあり毎回多くの市民が参加しています。本年度はこれまでに、「肥満症のはなし」や「腰痛ぎっくり腰」「脳卒中のはなし」などをテーマに開かれ、今回は「乳がんの早期発見と治療」について外科診療部長の原信介医師が講演をしました。

「乳がん」の現状
日本では亡くなる人の4人に1人は「がん」が原因で、その数は年々増えています。がんの死亡率では胃がん、子宮がんは減少傾向にあります。乳がんは昭和35年には3・06%だったものが平成12年には8・1%と増えてきています。現在は、23人に1人が乳がんにかかっているといわれ、年代別で見ると働き盛りの40代から患者数

が急増し、今後は13人に1人になるとも予想されています。これは欧米の8人に1人という数字に比べると少なく感じますが欧米では早期発見によって患者数も減少傾向にあり、増加している日本とは大きな違いがあります。

死亡率低下のために

乳がんの死亡率を低下させるためにも重要なことは「早期発見」と「再発させない治療」です。早期にがんが発見できると病巣も小さいため治療の幅が広がり、化学療法などによる再発させない治療を施すことができるそうです。

早期発見の最も有効な方法に「マンモグラフィ」による乳房のレントゲン撮影があります。欧米の患者数が減少している理由の一つに75%を越えるマンモグラフィ受診率が挙げられています。日本での受診率は約10%で、本市ではさらにそれを下回る7%という低い数値となっています。

「治療率を高めるために毎年1回のマンモグラフィ受診が大事です」と原医師は繰り返し話していました。

乳がんの予防には「酒を飲み過ぎない」「たばこを吸い過ぎない」「ホルモン剤を飲まない」ことが大事で、予防のために特定の食品



を大量に取る必要はないそうです。参加者の川原幸子さん(八幡町在住)は「年々健康第一と思うようになり、興味のあるテーマの時は教室に参加しています。年1回乳がん検診を受け、マンモグラフィも撮っています。きょうの話は難しい部分もありましたが、専門家の話を聞くと安心します」と話しました。

2月の健康教室は耳鼻咽喉科の医師による「睡眠時無呼吸症候群」です(本紙21ページ参照)。興味がある人は参加してみませんか。

編集長から「一言」

特集では、障害のある人や支援をしている人たちに出会い、そのひたむきな姿勢に心を打たれました。そして、人間はみな同じということをあらためて実感しました。どうしたら先入感や偏見などの心のバリアーを持たずに生きていけるのか、絶えず意識することが大切のようです。(一)



広報させぼ

平成18年2月1日発行



この「広報させぼ」は古紙配合率100%の再生紙と大豆油インクを使用しています。